

「コロナバスターズ」事業 あかりみらいがスタート

**確かなエビデンス
FC展開で全国へ**

北海道電力で危機管理
対策課長を務め、防災・
危機管理の専門家であ
る越智文雄氏が経営する



▲越智文雄氏

あかりみらい（本社・札幌市北区）は新型コロナウイルス感染症予防と緊急除菌を行う「コロナバスターズ事業」を7月から始めた。全国の感染拡大を防ぐために除菌・消毒の最新技術と大

「コロナバスターズ事業」は経済産業省の事業再構築補助（第1回公募・緊急事態宣言特別枠）の採択を受けた。中小企業庁によると、全国5181者の応募から2866者が6月16日に採択され、採択率は55%。あかりみらいは札幌商工会議所が認定支援機関となった。この事業再構築補助金は、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応する、企業

の思い切った事業再構築や挑戦を国が支援するもの。中小企業の場合、補助額は100万円〜600万円だ。「コロナバスターズ事業」は、あかりみらいが新たに展開する除菌全般を請け負うサービス。次亜塩素酸水溶液や最新の除菌資材を活用した、コロナ禍に苦しむ社会貢献のビジネスである。背景にあるのは、新型コロナウイルスの発生か

ら1年以上経った今も感染収束に至っていないこと。ワクチン接種に期待が集まるものの、感染力の強いデルタ株をはじめ次々と生まれる変異種に対応するには、3密回避と行動自粛以外の新たな感染防止対策が求められる。「空間除菌を含めた『環境除菌』が不可欠」と越智社長は言う。一般的な感染予防策として、手指消毒やティッシュ・ドアノブなどの除菌



▲あかりみらいはプロレスラーの蝶野正洋氏をイメージキャラクターに起用している

ら商品の高性能噴霧器を無償でレンタル。1自治体100台を上限に、すでに釧路市や標茶町などに貸し出し、公共施設などで使われている。原則2カ月がレンタル期間だが、「ワクチン接種の完了など、一定の目的がつかまで」と越

智社長は、一般社員法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事と日本除菌連合代表を務め、国会議員による「感染対策を資材と方法から考える超党派議員連盟」（会長・片山さつき参議）の5月設立を後押ししてきた。精神的な行動に駆り立てたのは「使命感」からだ。昨年の独立行政法人

製品評価技術基盤機構（NITE）の発表をきっかけに、「空間噴霧は危ない」「人体に害がある」という次亜塩素酸水の誤った風評が流れた。それを正すために厚生労働

は励行されている。しかし、変異種の出現で今までの付着菌、落下菌まで考えなくてはならず、その予防のためには空間全体の除菌が必要だ。除菌には、保健所からの指示で行う「緊急除菌」と、日常から感染予防行動として行う「予防除菌」の2種類がある。クラスター発生が落ち着いた後には、予防除菌のニーズが長期的に高まっていくと予想される。

日で約26万人が訪れた北海道神宮の拝殿や内殿ロビーの除菌を全面協力、5月のGWにはオホーツク管内興部町と後志管内倶知安町の成人式会場に出向いて会場を徹底除菌。関係者から感謝された。自治体への社会貢献はこれにとどまらない。6月か



▲自治体に無償レンタルしている自亜塩素酸水の噴霧器



▲興部町の成人式会場を無償で除菌した

製品の独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）の発表をきっかけに、「空間噴霧は危ない」「人体に害がある」という次亜塩素酸水の誤った風評が流れた。それを正すために厚生労働

大臣や経済産業大臣らに質問状を出すなど粘り強く活動を続けてきた。これらは、ここに来て大きな変化があった。越智氏が語る。

「6月4日、片山さつき議員事務所で、政府の検討会の委員長を務めていた松本哲哉氏（国際医療福祉大学大学院教授）が、風評の発端となった発言を翻しました。9日の参議院厚生労働委員会では、議連副会長の川田龍平議員から質問が出され、厚生省局長から「次亜塩素酸水の有効性や使い方を記した」ポスターを修正していく」という答弁を引き出しました。さすが片山先生の突破力で、この1年間の経産省や厚生省の見解や通達を修正するところまでこぎつけました」

ウィズコロナ社会はこ

れからも長く続く。ワクチンで日本全体の感染者を減らしていく一方で、「除菌という当たり前の基本的な対策をとること

あかりみらいは9月18日、道新ホールで危機管理フォーラムの開催を予定している。

札幌がなにかできる経済人ネットワーク 会場の徹底除菌で例会を通常開催

コロナ禍にあつて、企業や団体は、宴会はもとより、少人数のセミナー

まるのなら、まったく心配はない」と主宰する札幌がなにかができる経済人ネットワークの例会を

65回目。北海道大学総長を務めた丹保憲仁氏が講師を務め、「足し算でなく、引き算で本質を探す」をテーマに、2050〜2100年の人口問題等について言及。「世界では22世紀に100億人くらいになっているかも知れないけど、必ず60億人くらいに減る。日本がちゃんと食べていくには4000万人くらいがちょうどいい」などと近代文明の特徴やエネルギー問題を交えて語った。



▲2時間、常に空間噴霧されていた



▲プロテクションタワー



6月30日の例会は1
徹底している。
場では次亜塩素酸水による空間噴霧で除菌を



▲グラフや図表を用いてわかりやすく解説した丹保憲仁氏